

令和6年度 学校評価 最終報告

	・教育活動全体を通して、生徒の自己肯定感や自己有用感を高めることを目指す。 ・主体的に学ぶ姿勢を育みつつ、学力の基礎・基本を習得させるための授業を実践する。 ・キャリア教育の理念に立ち、一人ひとりの進路目標の実現に向け支援体制の充実を図る。 ・円滑な教育活動が推進できるよう、教職員の健康維持に配慮した体制を維持する。		
項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
広報活動 (総務部)	・戦略的な広報活動を展開する。 ・PTA活動の活性化を図る。	・中学生やその保護者の関心を高める学校案内を作成する。 ・学校説明会では、体験入部や体験授業の実施により、広報活動を推進する。 ・教職員とPTAとの連携を強めることで、学校の活性化を図るとともに、保護者の意見を取り入れ、PTA活動が活性化するように工夫する。 ・保護者授業参観は前年の反省を活かして実施する。	・学校案内の内容は円滑に決定することができた。多くが配付しきれずに残ってしまったので、作成部数と内容を再考する必要がある。 ・8月の学校説明会では、中学校訪問やHPで案内することで多くの中学生・保護者に来校いただくことができた。申込内容の確認や、教室移動時の案内が不十分であったので来年度は対策を行う。また、10月の学校説明会では部活動体験を中心とし、内容を精選していく。 ・学校祭では、PTA主催体験講座と食品バザーの実施をサポートした。ともに盛況で生徒も満足している様子であった。 ・保護者授業参観では、受付で案内図と当日の時間割を配付することで保護者が迷わないように工夫した。事後アンケートの結果は良好であったが、授業が見づらいという意見があったので、来年度は工夫したい。
授業の活性化 (教務部)	・生徒の主体性をはぐくむ授業実践を目指す。 ・ICT活用も含めた授業改善に取り組む。 ・総合的な探究の時間を軸に探究的な活動を一層取り入れる。	・公開授業や研究授業の実施を推進し、授業改善に取り組む雰囲気を醸成する。 ・外部資源も活用しながら、生徒が自ら課題を見つけたり問いを立てたりすることを支援する。	・ICT活用を進めることができた。授業に活用できるアプリ等の導入も含めて、今後も授業改善の取り組みを継続したい。 ・外部資源を活用しながら、各学年で探究活動を組み立て実施することができた。
キャリア教育の推進 (進路指導部)	・情報収集と情報の整理 (全学年) ・進路意識の高揚 (3年) ・職業観の醸成 (1・2年)	・総合的な探究の時間を活用する。 ・進路講演会や進路別ガイダンスを通して情報を提供し、整理する。 ・模擬試験や学年と連携した特別講座等で実力を高める。	・キャリア教育を総合的な探究の時間やLITの中で、生徒が主体的に進めることができた。校外での説明会にも積極的に参加できるとよい。 ・学年主任者会、教科主任者会等を通じて、進路に関する情報の共有ができた。 ・特別講座や模試などを活用して進学指導で成果を出すことができた。
交通安全 (生徒指導部)	・時間に余裕を持つことや交通マナー、規則を守ることの大切さを伝えることで、交通事故防止に対する意識を高める。	・時間に余裕を持つ事の大切さを集会等で伝え、主体的に時間を守るよう行動を促す。 ・自転車利用五則を周知徹底する。 ・安全委員の活動を促して自発的な安全行動を引き出す。 ・交通安全教室を通して、交通ルールの重要性や命の大切さを伝える。	・1学期から2学期へと時間が経つにつれて遅刻の数が激増し、それとともに交通事故も大変増えた。幸い重大事故にはならなかったが、大変危惧し、集会等で話を除く以外にも、朝、校門で時間ギリギリ登校する生徒に積極的に時間に余裕を持って来るよう声かけをしたりした。それから、並進、右側通行、一時不停止など規則がなかなか守れていなかったことが、交通立番などで分かった。折りに触れて、規則を守る大切さはHR掲示などで伝えてきたが、今後は法令遵守の精神をどう養うかが課題である。

特別支援 (保健部)	・特別な支援を必要とする生徒の早期発見と支援	・健康調査結果から把握した健康課題に関して早期に内容の確認を図る。 ・学年会・学年主任会等で各学年の問題を抱える生徒について情報を共有する。 ・相談担当の教員、担任、SCと情報交換し、具体的な支援方法を考える。	・特別支援学校に出向いてアドバイスを受け、合理的配慮の内容や本人たちの生活について、見直しを進めることができた。 ・職員の情報共有の徹底がされていない部分を修正していきたい。
学校行事 (特別活動部)	・健康や安全に十分に配慮した、生徒が主体となっていける生徒会行事を企画する。 ・部活動時間を厳守させる。	・体育的行事は生徒の現状に合わせた内容になるよう考案する。 ・細部まで配慮した丁寧な文化祭の要項を作成する。 ・生徒会行事は、生徒が自らの手で作り上げていくことを理解させる。 ・生徒の役割分担を明確にする。 ・部活動の活動場所を巡回する。	・種目や実施方法を工夫したが、体育祭・文化祭ともに暑さの被害が出た。次年度以降、行事を見直す必要がある。 ・行事は生徒自身で作らしてもらうため、手順書のようなものを作成する必要がある。早急に基盤を固めて軌道に乗せたい。 ・部顧問不足が解決しない限り解決できない問題が多い。 ・どの分野でも課題が山積している。
読書活動 (図書情報部)	・読書啓発（朝読の充実） ・校務及び授業におけるICTの利活用	・図書委員を活用し、季節の「図書館イベント」を充実させ、生徒を図書館に呼び込む工夫をする。 ・情報通信技術支援員の協力を仰ぎ、「教職員向け研修」を充実させ、教職員全体のICTスキルの底上げを目指す。	・図書委員を中心に季節の図書館イベントや、文化祭での「ミニビブリオバトル」を開催し、生徒の読書活動の活性化に努めた。 ・情報通信技術支援員講師のもと、教職員向けICT推進研修会を複数回実施し、成績処理や校務の効率化に努めた。
基本的生活習慣の確立 (第1学年)	・豊高生として必要な基本的生活習慣を確立する。	・「朝読」指導を始めとして、授業規律の遵守や身の回りの整理整頓など落ち着いて学習に向かう環境を作る。 ・授業を中心に、特別講座や模擬試験を交えながら、主体的に学習に向かう姿勢を作り、進路意識を高める。 ・行事に積極的に参加させ、学校生活の楽しさを実感させる。	・課題や考査への意識が変わってきた生徒が見られ、学習習慣が確立されてきたと感じられる。継続できるようサポートしたい。 ・総合的な探究の時間を通じて、2学期は豊明市役所と連携、3学期は企業と連携してそれぞれが抱える課題のアイデアを発表した。グループ活動を通じて互いにコミュニケーション力や発表スキルも高めることができた。 ・文理選択を行ったがまだ具体的な進路目標がない生徒が多い。3月には進路実現に向けて大学や学部を知る機会を増やしていく予定である。 ・学校祭に主体的に取り組めた生徒が多かった。学業とその他の学校生活を両立できるように様々な機会を与えていきたい。

中心学年としての役割を果たす (第2学年)	・自らの進路意識を高め、進路目標を具体化する。 ・行事等において中心学年としての役割を果たす。	・適切な時期に必要な進路情報が得られるよう、生徒に情報収集の方法を示す。 ・行事におけるリーダーを育成し学年のけん引力とする。	・キャリア教育を実践するにあたり、視野を広げた選択を意識させるため、総探の時間でSDGSの取り組みについて、長期休業中から企画・準備し、10月頃から実施した。先生方には大きな負担をかけたが、3学期の発表に向けて生徒は精進している。 ・高校生活で最も大きい行事である修学旅行で、集団での時間厳守の意識は日頃からの指導の成果を実感した。生徒主体で行う学年交歓会では企画・運営・当日とも特に出来が良かった。友人と寝食を共にし、県外へ宿泊することで新たな人間関係や学級の所属意識を高められたと考える。
進路指導 (第3学年)	・自らが社会にどのように貢献するかを具体的にイメージさせ、その実現のために必要な進路を選択させる。 ・希望の進路を達成するための学習環境を整える。	・丁寧な個人面談を行い、一人一人の適性や希望を把握する。 ・主体的な進路選択に向けて進路ガイダンス等を実施し、適切な時期に必要な進路情報を提供できるようにする。 ・特別講座、模擬試験の重要性を理解させ、積極的に参加させる。	・総合的な探究の時間の活動を通して、自己分析や自己表現を行った。総合型入試等で生かされた場面もあった。生徒に次の学びのイメージをいかに具体化させるかが課題であると感じた。 ・生徒の進路先についての情報を収集し、合同LTや面談を利用して生徒や保護者に的確に伝えた。 ・多様な入試形態に対応できるように、進路指導部と連携を図った。
いじめ防止対策の推進 (いじめ不登校対策委員会)	・いじめの未然防止に係る取組を充実させる。 ・いじめの早期発見、適切な事案の対処に努める。	・全校集会や学年集会、ホームルーム活動において、生徒が主体となっていじめ防止をテーマとした活動を行う機会を設ける。 ・いじめの情報収集、事案対処に係る学校いじめ防止対策組織の役割を具体化し、教職員間で共有するとともに、生徒や保護者にも周知する。 ・いじめアンケートの重要性を理解させ、しっかりと取り組ませる。	・いじめアンケートの実施状況は最初あまり良くなかったが、職員の協力を得ることで、以前よりは時間もかからずスムーズに取り組ませることができるようになった。アンケートの結果は、嫌がらせなど、減ることなく毎回数件あった。誰かが分からない調査のため、集会等で全体に向けて話をするにとどまった。このことは看過できないので、改善するための対応策を思案していくことが今後の課題である。 ・いじめ事案が2件発生したが、「いじめ防止基本方針」に基づいてしっかりと取り組んだ。

勤務管理の適正化	・業務の適正化を図り、教職員の健康維持に配慮した体制の維持に勤める。	・学級減に伴う教員定数の減少に合わせ、校務分掌の整理を図る。 ・業務改善のアイデアを整理し、実施を検討する。 ・在校時間等の状況記録の集計結果等を衛生委員会で確認し、1 か月間の時間外労働が80時間を超える教職員に対して、その都度面接指導の希望の有無について確認を行う。	・各校務分掌の業務内容の整理（業務改善）は、各分掌等で積極的に取り組んでいる。分掌の統合については、学校行事の統廃合と合わせて慎重に検討していきたい。また部活動についても、教員定数の減少による部顧問不足が生ずるので、規約に則り部員の募集停止や休廃部を検討するとともに、国や県の指針の下、部活動ガイドラインの改定を促したい。 ・時間外在校時間の月平均はここまで昨年度を下回っているが、80時間を超える教職員は依然なくなる。各種休暇や勤務日の振替、勤務時間の割振り変更などを積極的に取得・活用しているので、今後も促していきたい。 ・来年度から月木7限を月水7限とし、木曜日の職員会議の開始時刻を早め、会議延長に伴う時間外勤務の発生を抑制する予定である。併せて、7限曜日と6限曜日の勤務時間割振りについて今年度まで異なっていたものを同一とし、各教員が計画的な勤務を実施しやすい環境を整えていきたい。
----------	--	---	--